

安全な保育を行うために

幼稚園・保育所等教職員向け

幼稚園・保育所等で年齢別に注意すべき事故は？

0歳



頭部の大きさに起因する転倒事故

事例

室内遊びをしていたところ、座っていた本児がバランスを崩し後方へ転倒し、後ろにあった柵で後頭部を打撲した。

事故防止のポイント

- 室内に突起物等危険なものがないか確認する。
- 遊びを通じて自在に体を動かせる環境を整備する。

1~2歳



他の園児と関わる中での「ひっかき」「噛みつき」

事例

給食前の片付けを行っていた際、他児が本児の持っていた車の玩具を無理やり取ろうとし、拒否するとひっかかれほおに擦過創ができた。

事故防止のポイント

- 発達に応じた適切な数の遊具の準備や人員配置。
- 他の園児との気持ちの伝え合いを指導する。
- ご家庭で爪をこまめに切ってもらよう伝える。

3~6歳



遊具等からの転落事故、他の園児と「ぶつかる」「押される」

事例

他児と鬼ごっこの最中、すべり台で後ろから追いかけてきた他児に押され、高さ約1mから地面に転落。頭部を打撲した。

事故防止のポイント

- 遊具等の安全な遊び方を繰り返し指導する。
- 落下の危険のある遊具の下には、緩衝材を敷くなど環境整備に努める。

こんな事例もあります！

窒息・誤嚥

梨を食べているとき、一気に口に入れようとしていたので、小さく切り食べやすいようにしていたが、しっかり飲み込めていない状態で更に梨を口に入れていたため、せきをして苦しそうな様子で泣いた。



食べ物による窒息・誤嚥は、幼稚園・保育所等でたびたび発生する重大事故の一つです！

- ◆ 発達を考えて食べさせる食材を選びましょう。
- ◆ 食材を小さく切る、柔らかくする等、調理の仕方を工夫しましょう。
- ◆ 姿勢を正してよく噛むよう、目を離さず援助しましょう。

パンフレット「なくそう！保育中の事故」裏表紙掲載の「異物による窒息」もご活用ください！



参考：『学校の管理下の災害 [令和4年版]』、令和3年度災害共済給付データ

安全な保育を行うために

幼稚園・保育所等教職員向け

幼稚園・保育所等ではどんなことができるでしょうか？

教職員の中で…

- ✓ ヒヤリ・ハット事例を生かさそう！

他の園の事故や他学級のヒヤリ・ハット事例を、自園・学級でも起こり得ると受け止め、職員一人ひとりや園全体の危機管理意識を高めていきましょう。



- ✓ 登園時や移動前後の人員確認を徹底しよう！

単に人数を数えるのではなく、人員確認（一人ひとりの心身の状態を確認すること）とその報告を日々行うことが非常時にも冷静に対応できることにつながります。

- ✓ 「危機管理マニュアル」を作成し、事故発生時の流れを職員で共有し、定期的に見直ししよう！

万が一のときに慌てず対応できるようにマニュアルがあります。いつでも協力体制がとれるよう見直し・改善を繰り返しながら共通理解に努めましょう。

- ✓ 専門機関と連携を図り、最新情報を得たりアドバイスを受けたりしよう！

警察・消防や自治体の専門家の知識・経験を園内の安全確保に活用しましょう。



施設や遊具等

- ✓ 「安全点検表」を使い、定期的な安全点検を！

安全点検は、目視だけでなく、触診・打診・振動・負荷・作動を通して確実にを行い、点検のメンバーや場所を変えることでマンネリ化を防ぎましょう。また、乳幼児の目線や背丈等を踏まえて実施することも大切です。



- ✓ 遊び場・遊具の使い方について、こどもたちと職員で共通理解ができるように！

年齢や時期・時間等による約束事は、誰もが誰に対しても同じ指導ができるようにし、みんなの目でこどもたちを見守ることが大切です。落下の危険のある遊具の下に緩衝材を敷くなど、環境の見直しや点検を定期的に行い、安全な環境整備に努めましょう。

こどもたちへ…

- ✓ 日々の生活や遊びの中で危険予測・回避能力を育成するための指導を積み上げよう！



幼児期は、定期的な安全指導をこどもたちの実態に合わせて実施し、日々の生活・遊びの中で具体的・個別的な指導につなげましょう。また、安全な遊び方や自分の身を守ることへの意識を高めましょう。

パンフレットで詳しく見てみよう！

乳幼児（0歳～6歳）の事故の傾向と事故防止対策を掲載し、成長途上の乳幼児に起きる様々な事故について、未然に防ぐための情報をまとめています。安心・安全な保育のために、ぜひご活用ください！

